

提案1：地区館での一時預かり体制の構築

保育園や学童保育で、台風で親の送迎ができない場合などに、地区館などの地域の施設で、地域の人たちで見守れる体制を構築する。

行政の取り組み

- 保険などの制度を作って保育サポーターを集める。
- 地区館の管理者（行政区で選んだ近隣住民）との連絡連携
- 地区館での一時預かりの開館日と行事予定、時間を掲載
- 育児相談窓口の増設
- 放課後児童クラブは、対象者の振り分けが必要。放課後児童クラブは、両親が共働きで核家族の子どもを安心して預けられるセーフティネット。放課後子ども教室は、放課後児童クラブに入ることができない子ども、4年生以降の中学年の子ども達の居場所とする。
- 放課後児童クラブの市外への積極的な情報提供。近隣市町村より、預かり時間が長い、ただ預かるだけでなくプログラムがしっかりしていることなどを積極的にPRする。
- 謝金制にする。
- しおり、チラシ、市報、ホームページを活用して呼びかける。
- 登録制にする。
- 地区ごとの「一時預かり体制」の市全体としての支援と可視化を図る。
- 子どもを預かる際の保険制度をきちんとすることで、保育サポーターになってくれる人も増える。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かる役割を担う ・ 家族、親せき、友人に協力を依頼する ・ 地域で協力し合える関係づくりをする ・ 子育てボランティアの登録及び呼びかけ。 ・ 子どもの面倒をみるのが好きな人にお願いする。 ・ 「一時預かり体制」に参加できるかどうか、冷静に判断する。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども会の中で、父兄や祖父母で子どもの面倒を見るのが可能な人材を確保しておく ・ 地区館を開放する ・ 地区館での一時預かりをまずは月一くらいでやってみる ・ 地区の集落センター等を利用し、地域で子ども達を預かる ・ 放課後児童クラブと地区館への送迎。 ・ 地区館での見守り。 ・ 「一時預かり体制」に参加できる人の人数や可能な時間を一元的に把握する。
---	---

<p>意見・コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブが終わった後、まだ親の勤務の都合で家に戻ることができない児童を地区館で預かる。そのために子育てボランティアに参加してもらう。 ・共働き家庭の支援、ひとり親世帯の支援。 ・台風などの緊急時、地区館などの地域での施設で、地域の人たちで見守ることができる体制を構築した際、地区館から通学バスに乗るまでの間に何かあった時の保険制度を創出する。見守る側も、預ける側も安心できる。
----------------	---

提案2：子育てコンシェルジュの実施

保護者のニーズと保育サービス等を適切に結びつけることを目的として、子育てに困ったときに電話（テレビ電

話)で対応してもらえるサービスや、一時託児サービスなどを行う。コンシェルジュが沢山いることは、子育て支援に手厚いため、市の魅力にも繋がる。

行政の取り組み

- 子育て支援の各種取組について知っていただくための研修を行う
- 子育て世帯の相談窓口を開設
- 宣伝，市報等での紹介。
- 養成講座，講習会を積極的に開催する。
- 登録制にする。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養成のためのコンシェルジュ講座に積極的に参加する。 ・ 子育てコンシェルジュに積極的に立候補する。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域全体で見守る。
--	--

<p>意見・コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンシェルジュという名称になじみが薄いので，たくさん宣伝して親近感を出すとともに，多くのコンシェルジュを養成し，活躍の場を広げる。 ・ たくさんの市民が子育てに関わることができるようになればいい。 ・ 子育てコンシェルジュの内容について理解する。 ・ 市民からの子育てコンシェルジュを募る際に，幼稚園，保育園の教諭や保育士にも，子育てコンシェルジュになってもらう。
----------------	---

提案3：地域で学び合う場の構築

小中高大の子どもたちが教え合い、学び合う場を構築する。子ども同士だけではなく、地域の人が子どもたちに地域の仕事、伝統なども教える。

行政の取り組み

- システムの構築
- 場所や人材のスケジュール管理やマッチングなどのコーディネート及び年数回のイベント的な企画を実施する。
- 活用可能施設の確認。
- 支援ボランティアの呼びかけ，登録。
- 要綱の周知，市報等を活用して活動の周知，宣伝をする。
- 高校生会の取り組みに含めていく。(高校生が小中学生に教える。)
- 近隣高校に夏休み中の勉強を教えるボランティア募集を通知，依頼する。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の子どもに声をかけ、仲間意識を根付かせる ・ 子どもの遊び場の情報共有化 ・ スキルがある人は、指導者的な役割を担う ・ 地域での子どもの見守り・叱咤を行う勇気をもつ ・ 近所の人と積極的にコミュニケーションをとり，いざそうといった場面になったときに 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の祭や行事を盛り上げ、子どもたちに参加してもらう ・ 小・中・高・大の連携を深め、教え合い、情報交換の場として寺子屋を作る ・ (地区館などの)遊び場の提供や，場合によっては遊びの指導者的な人材の提供 ・ 生涯，父母教育の実施 ・ 地域の人とのコミュニケーションを図るための親子参加のワークショップの開催
---	---

<p>いつでも相談できる関係を築く</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援ボランティアとして参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを教える指導者的な人材の育成。伝統技術である帆引き船の漁法を伝授するなど。 支援ボランティアとして参画する。 施設内、校庭の樹木や草木伐採等の環境整備。 地区の公民館を有効活用する。
--	--

<p>意見・コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『廃校〇〇小学校 開放日』という形で、校庭や校舎内で遊んだり、料理をしたりして過ごす。 地域のお祭りを大事にする。地区のみんなが参加できるようにする。 地域で寺子屋(勉強だけでなく昔の遊びも学べる場所)のようなものを作って、子どもから年配者まで触れ合うことができる場を構築する。
----------------	---

提案4：行方市ならではのキャリア教育の実施

行方市で生まれ育った実感が湧く教育を行う。地域で育った子どもが行方市を出た後、再び戻ってくるような教育を目指す。企業や農協などと学校が連携し、キャリア教育を行う。

行政の取り組み

- 地域と学校を結ぶキャリア教育コーディネーターの誘致、育成
- 学校教育に具体的に組み入れ、市の児童生徒全員が関わりを通して、市民の実感を持たせる。
- 各中学、麻生高校、玉造工業高校との連携。
- 「気候が温暖で、災害が少ない」、「様々な農作物が栽培できる場所であり、試験圃場等に適している」、「東京に近い」、「高速道路が開通する」などの好条件を売りにして、農業系の大学（例えば、東農大）にキャンパス誘致のアプローチをする。
- 修学支援として、優良な生徒・学生で、かつ経済的理由によって修学が困難な者に学資（例えば、年間100万円若しくは月10万）を貸与し、有為な人材を育成する。また、進学に伴い転出し、そのまま就職した者が、卒業後、10年以内にUターンした場合には、返済を免除（一部又は全部）するなど、若者のUターンに結びつくような制度の創設。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> 行方市の魅力について、理解するようにする。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の活動に事業所、産業の従事者として積極的に関わる。 行方市検定のようなものを行う。 市内の事業所への中高生体験協力の呼びかけ、依頼。
---	---

<p>意見・コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の総合的な学習の時間で、年間計画に『行方市の“〇〇”（農業、水産業など）を考える』、『行方市の野菜を育てよう』等を組み入れる。 収穫から販売までの一貫した活動を取り入れ、六次産業的なスタンスから、行方市の産業の一角を担う人づくりをする。 中学、高校で行っている就業体験（職場体験）に関して、市内の中学、高校と連携して、市内の事業所での体験を進めていく。
----------------	---

提案5：ボランティアの活用

子育て分野では子育てボランティアがいるが、母子健診の際のサポートをお願いしているのみで、十分に活躍し

ていただけていない。また、子育てボランティアに限らず、地域にはボランティア（地域貢献）に対して参加意欲を持つ住民や団体が潜在している。またボランティアではないが、シルバー人材センターのような団体も存在している。

参加意欲のある住民や団体と、本提案にあるような取り組みなどの地域ニーズをマッチングさせて、行方市全体で子育てを行っていく機運を醸成する。

行政の取り組み

- ボランティアの力（人数、どの程度の時間関わられるのかなど）の把握、可視化
- ボランティア保険や手当などの整備（例：ボランティアポイント制度など）
- 行政内部での連携をしっかりととり、ボランティアとして参加してくれる人たちに情報共有する（人材バンクとしても良いか）
- 子育てボランティアを周知し、活躍の場を拡げる
- 会場の提供、調整、他課間の連絡調整。
- ポイントカード制（達成者には、事業所から提供を受けたプレゼントが送られる。）
- 市報、ホームページより呼びかけ、宣伝。
- ボランティアの人材バンクを創出する。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアに参加する、ボランティアを広める ・ 子育てボランティアの存在を把握する ・ 子育てボランティアを活用する ・ 積極的に呼びかけをする。 ・ 自分にできること（分野）に、まずは登録する。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアとして参加してくれる人に声をかける ・ 有識者、退職者がそれぞれ可能な内容のボランティアとして参加する ・ プレゼントを用意する。（製品、農産物の提供） ・ 子育て支援、子どもの預かり、障がい児の専門家、専門機関に、ボランティアを募集するにあたっての基準や資格について助言を受ける。
---	---

<p>意見・コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ シルバーリハビリ体操とタイアップして、高齢者と幼児、児童がともに体操活動に取り組んでいく。シルバーリハビリ体操指導士にも支援に関わってもらおう。 ・ 子育てボランティアの周知。 ・ 100人委員会のようないろいろな会議等で、子どもの預かり体制を構築していれば、子育て世代が会議等への参加がしやすくなる。子育てボランティアの有効活用。子育て世代が、行政に参加しやすいような体制を構築する。
----------------	---

提案6：病時、病後時保育体制の構築

病時、病後時保育を実施できる環境を整備する。

行政の取り組み

- なめがた総合病院と交渉し、体制を構築する。

<p>個人でできること</p>	<p>地域・民間にできること</p>
-----------------	--------------------

<p>意見・コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の子も同じレベルで、院内保育する。
----------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ なめがた地域総合病院との連携。神栖市の神栖済生会病院で取り組んでいる病児保育が、どのように取り組まれているか話を聞いて議論してもいいのではないか。 ・ なめがた地域総合病院だけでなく、診療所等の町医者さんにも協力してもらう。
--	---

提案7：育児困難家庭（経済的困窮、ひとり親家庭等）への支援体制の構築

経済的困窮、ひとり親家庭などの育児困難家庭に対し、情報提供や経済的な支援を行う。

行政の取り組み

- 個別訪問をして、情報を収集する
- 児童相談所などの専門家と連携して講演会を開く
- 子育て支援奨励金の構築
- 相談機関を設ける
- 相談窓口サービス。専門家への引き継ぎやボランティアへの連絡は行政が入って行うとよい。
- 戸別訪問を実施する。
- パイプを広げる，パイプを確立する。
- 「民生委員」，「児童委員」 「子育てコンシェルジュ」の人たちの活動を活性化する。活動の指針の明確化，活動の検証を行う。
- 行政としてのサポート体制を一本化する。

個人でできること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当事者の話を聞く、サポートする ・ 声掛けを行う。 ・ 民生委員への報告，連絡する。 ・ 育児困難家庭での具体的な困難なことの発信をする。 ・ 地区や行政に具体的にサポートは何かのかを発信する。 ・ 多くの市民が現状を理解できるようにする。 	地域・民間にできること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児困難家庭が，地域や行政に求めているものは何かを把握し，地域としてできることは何なのを把握する。 ・ 相談する場所，補助，支援の方法を明確にする。 ・ 民生委員，児童委員の積極的な活用。
----------	---	-------------	--

意見・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている内容によって，担当部署が変わってしまう。 ・ サポート体制の整備。 ・ 実態把握のため，戸別訪問や，小中学校へのアンケート調査を依頼する。 ・ 5歳児相談はいい取り組みなので継続する。 ・ 子育てが大変なことをみんなで理解する。帰りが遅くても安心して預かってくれるような施設をつくったらいいと思う。 ・ 育児困難家庭が，地域や行政に求めているものは何かを把握し，できることから取り組んでいく。 ・ いつでも相談できる体制を構築し，必要な人に知ってもらうことが大事である。
---------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害のある子どもがいる家庭には、専門的な知識や資格のあるボランティアの派遣ができたほうがいい。 ・ 経済的な困難のある家庭には、就職のあっせんと子どもの預かりサービスを提供する。
--	--

提案8：男性の育児参加を促し、女性の負担を減らす取り組みの実施

男性が積極的に育児に関わり、女性の負担を軽減するような取り組みを行う。共働き世帯へのサポートを行う。

行政の取り組み

- 育児に取り組むイクメン支援事業の創出
- イクメン DAY を取り入れる事業所を奨励し、表彰
- 学童保育事業を営む民間企業の誘致
- 預かり時間の延長
- 定員枠の拡大及びスタッフの増員
- 子育て中の保護者への教育をする。お金を少額ずつバラマクのではなく、将来につながるように（親への）責務を負わせる。
- 市報、HP で宣伝、紹介する。ポジティブな意見を掲載する。
- 男性が育児に関わることの大切さを知る講演会の開催。
- 幼児期などの定期検診は、両親できてもらう日（年齢）を設定する。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内分業に積極的に関わる ・ 自分の現状に合わせて利用できる制度を把握する。 ・ 保護者間での情報共有 ・ 育児を学ぶ。仕事との両立 ・ 育児休暇を積極的に取得する ・ 我が家でも実施する。 ・ 育児を分業する。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男性に育児トレーニングをする ・ 男性の育児を褒める雰囲気をつくる ・ 育児休暇を取りやすい環境をつくる ・ 学校行事に合わせた休暇制度の実施 ・ ノー残業デー等の男性子育てを応援する環境づくり ・ 『育メンズ』の結成。 ・ お話、相談、サポート体制の確立。 ・ 育児期の男性（父親）のミーティングや会合を開き、育児の楽しみや方法などの情報交換の場がもてるといい。
---	--

意見・コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真等で事例を含めて市報で紹介する。 ・ 『このように市民の育メンは頑張っている！！』的なことを大々的にキャンペーンをする。 ・ ベースは、家庭内（夫婦間）での話し合いが大事である。 ・ 育児は、本来男女ともに協力することが必要だということを理解する。
---------	---

提案9：希望の出産数を実現できるような支援（不妊治療への支援、育児中の女性の働く場の確保、結婚支援など）

男性が積極的に育児に関わり、女性の負担を軽減するような取り組みを行う。

行政の取り組み

- 不妊治療費の助成の拡大

- ノー残業デーを促すなど、不妊治療の時間を確保できるよう事業所に働きかける
- 働きやすい職場づくりの支援、斡旋
- おっせかい役や婚活事業を行う者の指導，サポートする
- 0, 1, 2 歳の保育枠が厳しいので，託児所や家庭的保育事業者などの開拓や起業（人材）育成
- 妊産婦や児童のマル福の一部負担金を下げる
- 健康増進課で実施している未就学児に対するケア（母子健診等）を就学児童に対しても引き継ぐ
- 療育機関を増やす，専門機関への紹介，相談できる場を設ける
- 学校跡地を活用した、モデルタウンの整備

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚→出産→子育ての前に出会いの場，安定した仕事に就く。 ・ 積極的に子育ての情報（入所希望園の見学，情報収集など） ・ 乳児健診の受診，早期発見 ・ 参加者は，民間，事業所単位で呼びかけをする。民間，事業所に，1 人当たり 5,000 円程度の報償金を出す。（参加費は徴収する。） ・ 景品の供出。 ・ 移住者と積極的にコミュニケーションを図る。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治療に当てる時間ができるように有給を取得しやすい環境整備 ・ 魅力ある働く場を作る ・ 事業所同士の交流会など、出会いの場を創出 ・ 地域の中で，おっせかい役を育てる ・ 未婚化，晩婚化も少子化の要因と考え，地域ぐるみで若者の出会いの場づくりや結婚相談会等を実施する ・ 商店街や居酒屋に出会いの場の提供に協力してもらう。協力店舗にたいするインセンティブを用意する。 ・ チーム OSK（地域ボランティア）の活動を支援する。商店街や居酒屋の店主にもチーム OSK に加入してもらう。 ・ 企画運営を行う。報償金の創出。 ・ 事業所，個人事業所（農家も含む）から景品を供出してもらい，賞品として提供する。 ・ 農家の後継者で結婚適齢期にあたる人たちの出会いの場の提供。 ・ 有給休暇や残業なしの配慮も必要なので，事業所等に，市の方針を理解してもらい賛同を得ていくことができるとよい。
---	---

<p>意見・コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内にある企業，事業所で一括して取り組む。 ・ 結婚支援策として，イベント（パーティー，ボーリング大会，スキー大会，スケート大会）を実施する。 ・ 不妊で悩んでいる人に，別の選択肢として，里親制度，養子縁組制度を周知する。少子化対策の一つになる。 ・ 出生率の低下は日本全体の問題。要因は 2 つで，1 つは結婚したくても出来ない人，出会いがない人をどうするか。もう一つは，1 人の子どもを社会人まで育てるまでの教育費の増大から，子どもは 1 人でいいという家庭が増大していること。行方市の場合は，1 つ目の要因が原因だと思う。
----------------	---

提案 10：行政内子育て支援の担当課間での連携を深める

子育て支援に関連する担当課が複数あり、連携に課題がある。担当課間の連携を深め、より質の高い子育て支援サービスを構築する。

行政の取り組み

- 子どもに関する部署の情報共有の場を設ける
- 市の広報紙に各課の仕事内容を掲載する
- 特別に支援を要する子どもに関する担当課を統一する
- 子育て専門施設を設置する。(遊び, ミニ図書館, 講座, 育児相談, 単発の保育等が実施できる場所)
- 関連課の情報共有。

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じようなことを違う部署で実施していることを知る ・ 子育て中の母親や父親が何を求めているか把握する。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・
--	--

意見・コメント	・ 市長からのトップダウンで縦割りをなくしていく。
---------	---------------------------

提案 10：将来の行方市を担う子ども達の人財育成

未来を担う子ども達も一緒に、地元への愛着心が持てるように育てていく。

行政の取り組み

- スポーツ少年団や中学校の部活動の活性化
- スポーツ安全保健負担金の割戻し
- スポーツ指導者の確保, 育成
- ジュニア, シニアリーダーの育成 (中学, 高校生の活用)

<p>個人でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもにスポーツをさせたいが, スポーツ少年団の加入に躊躇している親たちの話を聞く。 	<p>地域・民間にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とスポーツ少年団の連携。地域の人材活用 ・ 地元の運動場の整備をサポートする。
--	---

◎特記事項 (新たな取組みの提案や特に強調すべきことなど、自由記載)

○行方市民マラソンの創設。(湖岸を利用した) 夕陽に沈む日没マラソン。

- ・ コース：堤防
- ・ 日時：日没が美しい時期 (年 2 回程度)。筑波山, 富士山に沈む頃。
- ・ 賞品：農産物等
- ・ カテゴリー：独身ペア (エントリー料の減免)。小中高, 大人, 一般男女ペア。

○農業総合大学の創出 (学校教育法の大学ではないもの)

- ・ 苗づくりから販売までのスタイルの学校
- ・ 宿泊型 (施設の廃校)
- ・ 農地, 水産業等は豊富な地元。地域特産物をそれぞれ単一コースとして募集する。
- ・ 米, エシャレット, ミツバ, イチゴ, サツマイモ, タバコ, 鯉, 豚他。

○住みやすい環境を整備することが第一である。

○会議の時に子どもを預かってもらうことができれば, もっと子育て中の人も参加できた。

○市民の立場としては情報をどう知るか, 行政としてどのように発信していくか考えていくことが大事である。どうしたら知ることができて, 市民に参加してもらうか考えていく。